

- ① 小児特定集中治療室管理料について
- ② 新生児特定集中治療室管理料について

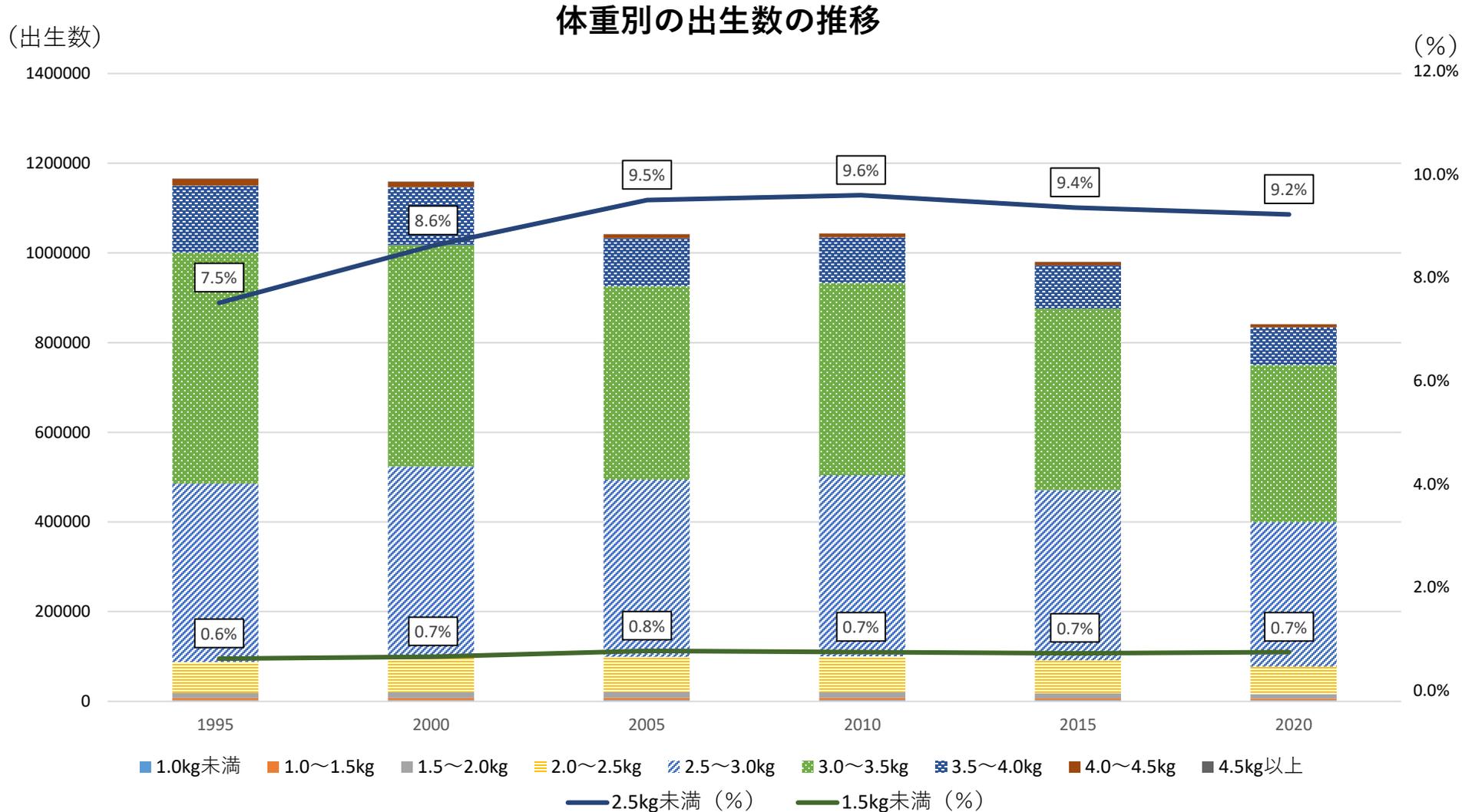
# 新生児特定集中治療室の概要

○ 新生児特定集中治療室については、A302とA303において診療報酬上の評価を行っている。

	A303 総合周産期特定集中治療室管理料2 10,539点(1日につき)	A302 新生児特定集中治療室管理料1 10,539点(1日につき)	A302 新生児特定集中治療室管理料2 8,434点(1日につき)
算定対象	次に掲げる状態にあつて、医師が新生児特定集中治療室管理が必要であると認められた者 ア 高度の先天奇形、イ 低体温、ウ 重症黄疸、エ 未熟児、オ 意識障害又は昏睡、カ 急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪、キ 急性心不全(心筋梗塞を含む)、ク 急性薬物中毒、ケ ショック、コ 重篤な代謝障害、サ 大手術後、シ 救急蘇生後、ス その他外傷、破傷風等で重篤な状態		
算定上限日数	21日 ただし、以下の場合を除く 出生時体重が1500g以上で厚生労働大臣が定める疾患を主病として入院している新生児:(35日) 出生時体重1000~1499g:(60日) 出生時体重1000g未満:(90日)		
医師の配置	○専任の医師が常時、治療室内に勤務		○専任の医師が常時、医療機関内に勤務 ○緊急時は別の医師が速やかに診療に参加
看護師の配置	○助産師又は看護師の数は常時3対1以上		
構造設備等	○1床あたり7平方メートル以上 ○原則バイオクリーンルーム ○救急蘇生装置等の装置及び器具を常備、 ○自家発電装置を有し、電解質定量検査及び血液ガス分析を含む必要な検査が常時可能		
その他	○ 出生体重1,000g未満の新生児の新規入院患者数:直近1年間で4件以上 ○ 開胸手術、開頭手術、又は開腹手術:年間6件以上実施		○出生体重2,500g未満の新生児の新規入院患者数:直近1年間で30件以上
	○総合周産期母子医療センター又は地域周産期母子医療センターであること ○ 当該治療室に病床が6床以上設置されていること		

# 低出生体重児の推移

- 出生数は減少傾向である。
- 低出生体重児の割合は近年横ばい傾向である。



# 慢性肺障害 (CLD) の概要

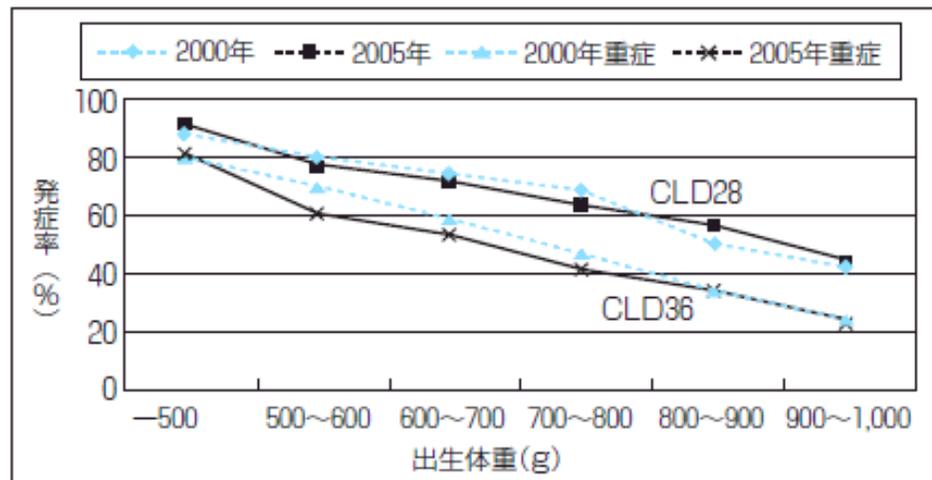
- 慢性肺障害とは、「先天性奇形を除く肺の異常により酸素投与を必要とするような呼吸窮迫症状が新生児期に始まり日齢28を超えて続くもの」と定義されており、さらに、肺障害のうち大部分を占める低出生体重児の慢性肺障害を「疾患」として特徴づけている。
- 一般に出生時体重が低いほど慢性肺疾患の発症率は上昇し、慢性肺疾患の発症率は超低出生体重児 (出生時体重1000g未満) で57.7%、極低出生体重児 (出生時体重1500g未満、1000g以上) で12.2%であった。

表1 慢性肺障害

早期新生児期から肺の換気障害が持続し、酸素療法が一定の期間以上に必要な新生児。上気道の疾患を除く。

(a) 酸素療法期間が日齢28日以上	従来から繁用されてきた定義であり、現在も使用されている。
(b) 酸素療法期間が受胎後週数で36週以上	在胎期間の個体差を考慮したもので、群間比較などに適しており、(a) と比べていっそう合理的と考えられている。

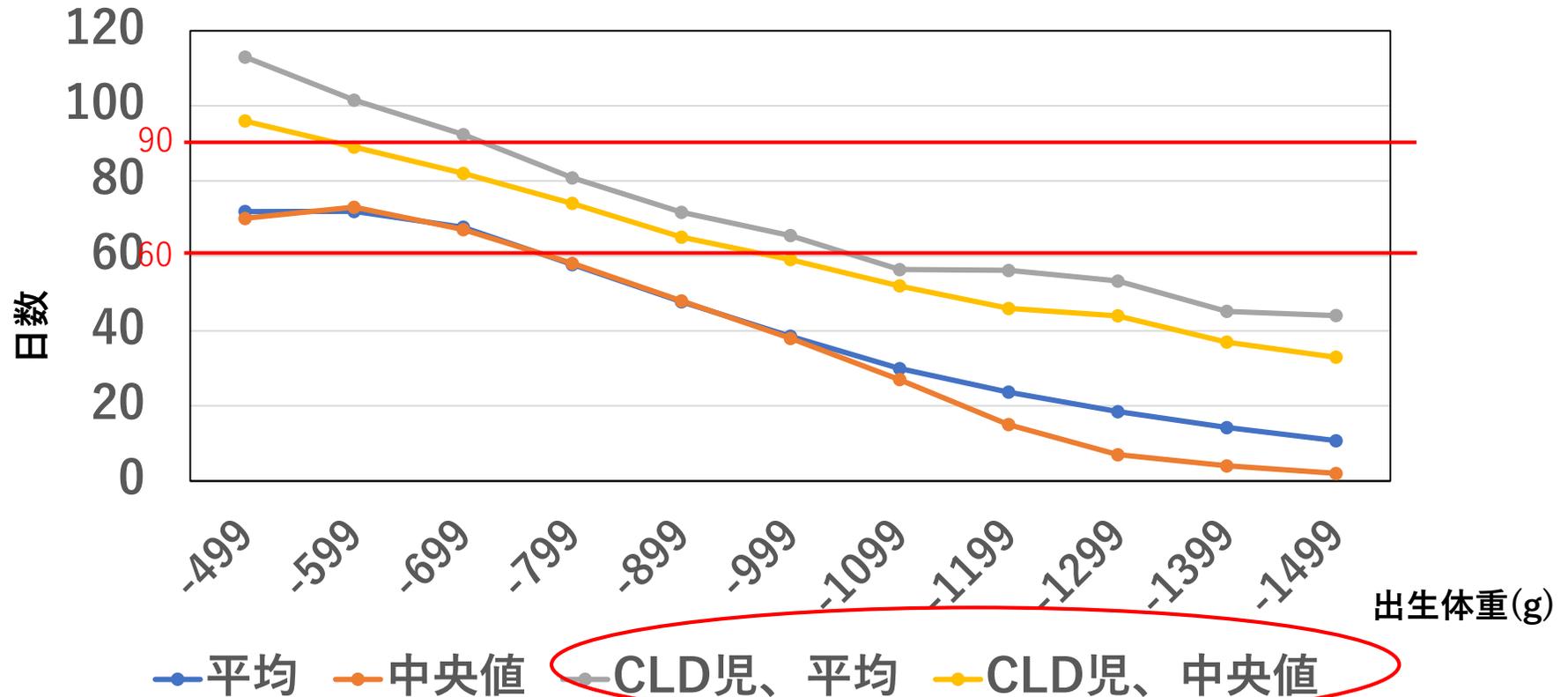
図3 体重別CLD発症率



# 出生体重別呼吸管理必要日数(急性期呼吸管理)

○ 出生体重にかかわらず、慢性肺疾患(CLD)を合併した患児においては、そうではない患児と比較して、呼吸管理必要日数が長くなる傾向があった。

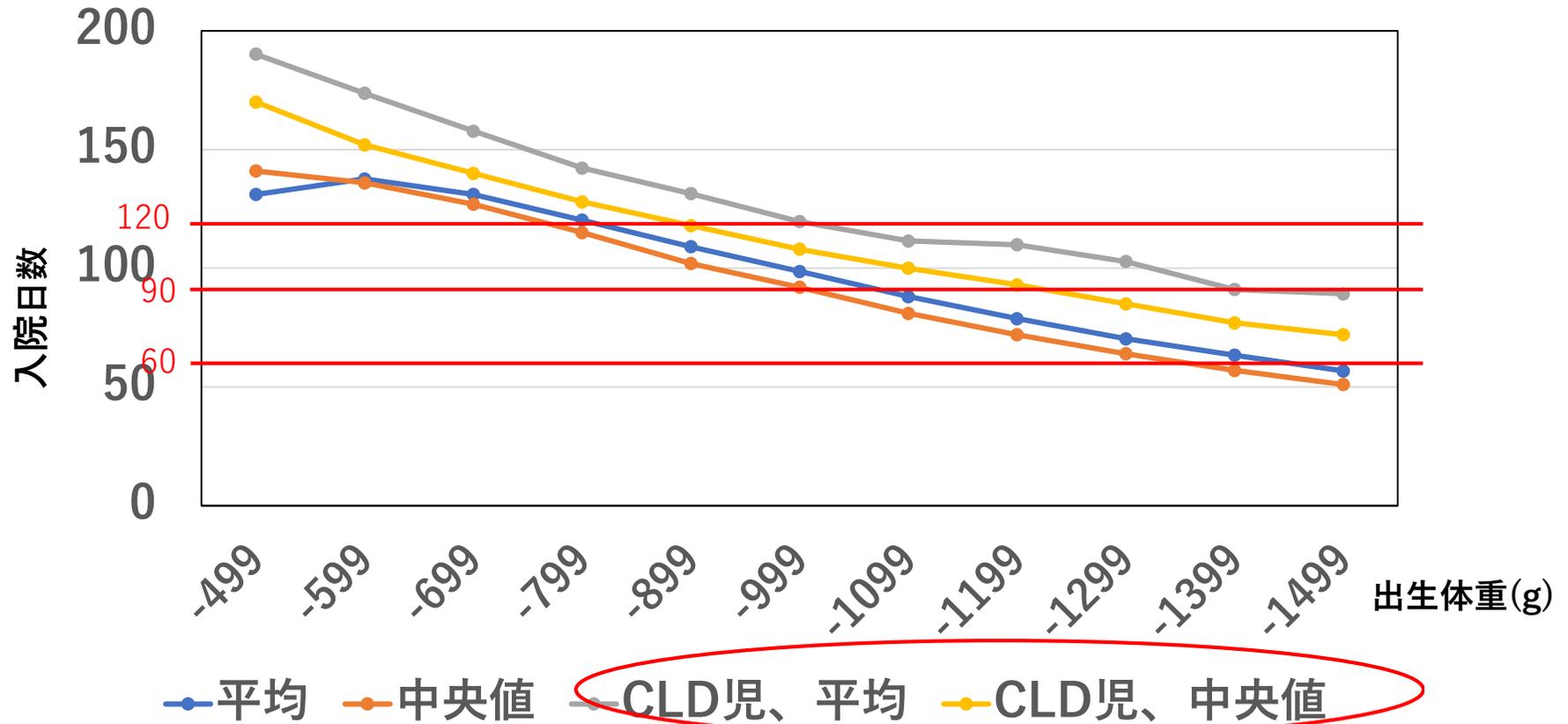
## 出生体重別呼吸管理必要日数 (急性期呼吸管理)



# 出生体重別入院日数

○ 出生体重にかかわらず、慢性肺疾患(CLD)を合併した患児においては、そうではない患児と比較して、入院日数が長くなる傾向があった。

## 出生体重別入院日数



# 小児高度急性期医療体制に係る課題(小括)

(小児特定集中治療室管理料について)

- 少子化の影響により、小児の入院患者数は減少してきている。これに伴い、小児重症患者転院搬送件数及び重症患者の救急搬送件数が減少してきている。
- 小児特定集中治療室に入室する患者像は「他院からの転院」、「手術後」、「院内急変」の患者や、疾患で見ると、「重篤な感染症」や「先天性心奇形」であるが、現行の施設基準に設けられている基準は患者の救急搬送に着目されたものである。
- 先天性心疾患は治療の発展により、以前は治療が難しかった先天性心疾患についても救命可能となり、新生児期や乳児期に行われる手術件数の割合が上昇した。
- 重症先天性心疾患をもつ新生児の場合、手術前管理を行いながら、体重を増加させて、心臓手術を行う必要があり、入院日数が長くなる傾向にある。

(新生児特定集中治療室管理料について)

- 低出生体重児にみられる病態に「慢性肺疾患(CLD)」があり、この疾患を合併した新生児の場合、呼吸管理が必要な期間が延長する傾向が明確に見られる。これに伴い、入院日数が延長する傾向がみられる。